

## **慢性肝疾患における非侵襲検査による肝線維化診断へのアプローチ**

慢性肝疾患は肝硬変、肝臓と進行する病気として知られ、肝臓の線維化の状態を把握することは、治療方針、予後規定、肝発癌予測などにおける重要な課題となっております。現在肝臓の線維化の評価法は肝生検ですが、頻度は少ないものの出血などの重篤な合併症を生じる可能性や止血能の低下した肝硬変では施行しにくいなどの点で、肝生検以外の非侵襲的な肝線維化診断法の開発が望まれております。

当科では、慢性肝疾患患者様の日常臨床で行っている検査や採血検体を用いてデータを集積し、また残余検体を用いて新しい線維化マーカーの開発研究を行い、慢性肝疾患の予後改善のため 1981 年 1 月 1 日～から現在に至るまでの患者様の臨床経過や検査結果を診療記録より調べ、検討しております。

この研究で得られた成果を専門の学会や学術雑誌に発表する可能性があります。成果を発表する場合には、研究に参加していただいた方のプライバシーに慎重に配慮します。個人を特定できる情報が公表されることはありません。この研究は奈良県立医科大学 医の倫理委員会の審査を経て承認を得ています。これらの研究において、ご自身の提供された試料等について問い合わせたい、もしくは利用を拒否したいなどの場合には下記にご連絡ください。

### **奈良県立医科大学消化器内分泌代謝内科**

TEL 0744-22-3051(内線 3415)

担当者 竹田 幸祐

## 検査・治療・麻酔 同意書

このたびは \_\_\_\_\_ に 入院中 \_\_\_\_\_ の患者 \_\_\_\_\_ 殿および親族

1. 病名、病状、経過予想、予後
2. 手術・検査・麻酔内容、必要性、合併症、安全性、危険性
3. 治療方法とその利点と欠点、他の治療法

について、以下のように説明しました。

- ・ 肝臓内の病態を組織学的に詳しく把握するために、体外から直接細い針を刺して肝臓の一部を採取します。
- ・ 具体的な手順は次のとおりです。まず、検査開始約10分前に鎮痛・鎮静剤を静脈注射します。超音波検査で穿刺経路を決定し、刺入部の皮膚を消毒します。次に穿刺経路となる皮膚と腹膜を局所麻酔します。約10秒間、呼吸を止めていただく間に生検針を刺入し、肝臓のごく一部を採取できたことを確認して終了です。検査後には抗生物質と止血剤を点滴しつつ、4時間ベット上で安静にいただきます。その後超音波検査で出血がないことを確認の上、安静解除となります。翌早朝に血液検査を行い、貧血がないことを確認します。通常、検査に伴う疼痛は軽度ですが、時に比較的に強い場合があります。
- ・ まれに検査の際に使用する薬でアレルギー症状などがでることがあります。超音波検査を併用し安全には十分配慮して行いますが、ごくまれに検査に伴って感染、肝臓あるいは腹腔内に出血を生じることがあります。この場合、血管造影を行い、肝動脈塞栓術を行う場合があります。その際は入院延長の可能性がります。
- ・ 万が一合併症や副作用が発生した場合には、適宜適切に対応いたします。

医師 鍛冶 孝祐

上記のように説明を受けました。その内容について十分に理解しましたので

手術：手術日 \_\_\_\_\_ 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日に術名 \_\_\_\_\_

検査：検査日 \_\_\_\_\_ 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日に検査名 \_\_\_\_\_

を行っていただくことに同意します。緊急の事態が発生した場合には、それに対する処置も受けることに同意します。

平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

本人：現住所 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_ ⑩ 生年月日 \_\_\_\_\_

親族：現住所 \_\_\_\_\_

(続柄 \_\_\_\_\_ )

氏名 \_\_\_\_\_ ⑩ 生年月日 \_\_\_\_\_

奈良県立医科大学附属病院長 殿